CAS OM　さようなら

JJ1SXA 池

つい先日、松永 OM の永眠の報に接しました、5月末の電波伝播実験の移動先がなかなか決まらずにいたOMの最終決定の移動地情報がわからないまま、私たちは9エリアに行きましたが、どこへ行っているかと、伝播実験の前夜SXBが、OM の携帯電話に連絡を入れると、なんと女性の声、一瞬間違ったかなと思いながら、念のため松永さんですか？と問い掛けたら、そうですとのこと、妹さんでした。

驚きは、それだけではありませんでした、自宅で倒れて、緊急入院し、救急治療室にいるとの話、病状は、一応峠を越して、意識も戻ったようですが、当分面会禁止とのことで、直接聞いたSXBも驚いたでしょうが、私も本当に驚きました。

その後治療の甲斐無く、黄泉の世界に旅立ってしまい、早く退職して、無線の友達を訪ね歩く、全国行脚をするという夢も敢え無く潰えました。

全国行脚の節は、私たちも同じ方面に出かけ、時には会ったり、とにかく無線のつながる距離内で行動、大いに楽しみましょうとの約束も反古になってしまいました。

又、和文 CW でのラグチューをやりましょうやと言っていたのに、その約束はどうする気ですか？と言いたい所です。

無線での活躍は、知る人ぞ知るで、HF の DX もさることながら、50MHz の DX では、数々のファーストエバーの記録を作り、これは、永遠に書き換えられることはありませんし、DXコンテストにおいても、CQ WW で、今は破られたものの、当時のアジアレコードを打ち立てたそうですが、その時は、エレキーを打つ指の皮が剥け、終わった後は、もうコンテストはたくさんだと思ったとしみじみ話をしていました。

何時でも、何処でもパッと眠りに入り、夜中でも早朝でも、パッと目覚める特技は、HF ローバンドの DX を追いかけた時代の習性でしょうか。

逆に、そうした無理が、知らず知らずに身体を蝕むことになったのかも知れません、本人は、いたって健康体のつもりでしたし、当然回りの人もそうだと思っていました。

240グループのメンバーもどんどん高齢化してきました、健康にはくれぐれも気をつけたいものです、他人事ではありません、私自身が気をつけなければいけない、高齢者トップグループに入っています。

まだ数年のお付き合いでしたが、親しくして頂きました、英語、スペイン語を巧みに操っての、オーバーシーの局との QSO、また独特の関西弁での日常のラグチュー、あの懐かしい声は二度と聞けなくなってしまいました、本当に残念です。

天井界で、先に逝って、1年前から待ち草臥れている、小沢 OM とアイボールをして、共に、私どもの活動に目を光らせていただくのは結構ですが、あなたは人生を十分に頑張りました、どうぞゆっくりお休みください、さようなら。

ご冥福をお祈りします。　JA3JXJ/7K2LBK CAS OM　73　GB de JJ1SXA